

平成20年度

教育訓練事業(専門課程・短期研修)

フォローアップ調査報告書

国立保健医療科学院

## 目 次

I. 総括	1
1. 本調査の目的	3
2. 対象と方法	3
3. 結果の要約	3
4. 調査を踏まえた提案	4
5. 今後のフォローアップ調査について	6
6. 終わりに	6
7. アンケート調査集計表(全体版)	8
II. 専門課程	11
1. 専門課程の総括	13
2. 分野別総括	15
(1) 専門課程Ⅰ 保健福祉行政管理分野 (本科・基礎)	15
(2) 専門課程Ⅱ	16
① 地域保健福祉分野	16
② 生活衛生環境分野	17
③ 生物統計分野	17
④ 国際保健分野	19
⑤ 健康危機管理分野	20
(3) 専門課程Ⅲ	22
① 地域保健福祉専攻科	22
② 安全管理研究科(現 医療安全管理専攻科)	23
III. 短期研修	25
1. 短期研修の総括	27
2. 研修別総括	29
(1) 公衆衛生看護管理者研修	29
(2) 公衆栄養研修	30
(3) 食肉衛生検査研修	31
(4) 食品衛生監視指導研修	32
(5) 食品衛生管理研修	34
(6) 住まいと健康研修	36
(7) 建築物衛生研修	38
(8) 水道工学研修	40
(9) 医療放射線監視研修	41
(10) 疫学統計研修	43
(11) 研究機能強化のための疫学・衛生学研修	45

(12) 地域保健支援のための保健情報処理技術研修	46
(13) 臨床試験に関わる臨床医向け生物統計学研修	48
IV. 調査回答集計表	51
1. 専門・専攻課程	53
(1) 専門課程Ⅰ 保健福祉行政管理分野 (本科・基礎)	53
(2) 専門課程Ⅱ	65
① 地域保健福祉分野	65
② 生活衛生環境分野	71
③ 生物統計分野	75
④ 国際保健分野	79
⑤ 健康危機管理分野	83
(3) 専門課程Ⅲ	89
① 地域保健福祉専攻科	89
② 安全管理研究科(現 医療安全管理専攻科)	95
2. 短期研修	117
(1) 公衆衛生看護管理者研修	117
(2) 公衆栄養研修	139
(3) 食肉衛生検査研修	153
(4) 食品衛生監視指導研修	163
(5) 食品衛生管理研修	171
(6) 住まいと健康研修	181
(7) 建築物衛生研修	189
(8) 水道工学研修	197
(9) 医療放射線監視研修	213
(10) 疫学統計研修	219
(11) 研究機能強化のための疫学・衛生学研修	227
(12) 地域保健支援のための保健情報処理技術研修	233
(13) 臨床試験に関わる臨床医向け生物統計学研修	245

# I. 総括

## 1. 本調査の目的

国立保健医療科学院（以下、科学院）は、現在、研究課程、専門課程Ⅰ－Ⅲ、短期研修62コース（平成20年度）の教育研修を実施しており、年間4,700名を超える修了生を出している。量的な拡大とともに提供する教育研修の質の向上を図ることは、今後科学院での教育訓練事業を発展させる上で極めて重要と考えられる。今回、研修の有用性の検証と研修に関するニーズ把握を目的として、主として平成18年、19年度の派遣元及び修了生を対象にフォローアップ調査を実施したので、その結果の概要を報告するとともに、いただいた意見を今後どのように生かしていくかを述べたい。

## 2. 対象と方法

調査の対象は、専門課程については、現行のⅠ、Ⅱのうち6分野（保健福祉行政管理分野、地域保健福祉分野、生活衛生環境分野、生物統計分野、国際保健分野、健康危機管理分野）、Ⅲの地域保健福祉専攻科及び医療安全管理専攻科の前身である病院管理研修の安全管理研究科の平成18、19年度修了の派遣元及び修了生とした。ただし、明確な派遣元がない分野もあるので、その場合は、修了生のみを対象とした。また、対象人数の関係で、17年度の修了生まで含めた分野もあった。

短期研修では、研修日数が10日間以上の12研修（建築物衛生研修／住まいと健康研修、医療放射線監視研修、水道工学研修、公衆栄養研修、臨床試験に係わる臨床向け生物統計学研修、地域保健支援のための保健情報処理技術研修、食肉衛生検査研修、食品衛生監視指導研修、食品衛生管理研修、公衆衛生看護管理者研修、疫学統計研修、研究機能強化のための疫学・衛生科学研修）について、平成18、19年度実施した研修の派遣元及び修了生を対象とした。

自記式質問票を郵送にて派遣元および修了生に配布し、FAXまたは郵送にて回収した。派遣元の郵送先は、専門課程の場合は衛生主管部局宛とし、短期研修の場合は応募書類を参考に派遣部局を特定した。

質問項目は、共通質問のパートと分野・研修別の個別質問のパートからなっており、前者は、「役に立っているか（派遣元・修了生）」、「今後も派遣したいか（派遣元）」、「他の人に勧めたいか（修了生）」を尋ね、後者は、各分野・研修に特化した質問項目を数問から数十問尋ねた。

## 3. 結果の要約

回収率は、専門課程全体で派遣元82%（回収数／送付数＝46／56）、修了生77%（61／79）で、対象となった短期研修全体では、派遣元83%（回収数／送付数＝335／406）、修了生79%（487／614）であった。

### 専門課程の結果

「(たいへん)役に立っている」との回答は、派遣元 93 %、研修生 89 %であり、「(ぜひ)派遣したい(派遣元)」は 87 %、「(強く)勧めたい(研修生)」も 73 %と、全体としては、派遣元・研修生ともに肯定的な意見が大多数であった。

「どちらとも言えない」との回答も少数あったが、その背景には、研修を終えて派遣元に戻った際に、研修経験を生かせる業務に就いていない現状があるものと考えられた。

その他、修了生の意見として、「物事の見方や行政官としての態度、プレゼン能力などの向上に役立つ(保健福祉行政管理分野)」、「研修直後の部署は特化業務が多いが、5年後、10年後には包括的知識や管理能力などの学びが生かされるだろう(地域保健福祉分野)」、「基礎科目の知識が役に立っている(生活衛生環境分野)」、「今後も質およびレベルの高い研修の継続を望む(生物統計分野)」、「重要なキャリアパスとなっており、修了後要職についている(国際保健分野、外国人修了生)」、「実地疫学や公衆衛生について系統的に学べた点が役に立った(健康危機管理分野)」、「疫学や統計はやはり重要(地域保健福祉専攻科)」、「自院で孤立しがちな医療安全管理者にとって、継続して相談ができる仲間の存在は大きな財産である(安全管理研究科)」などの意見が得られた。また派遣元からも、研修期間を中心に意見が寄せられた。

### 短期研修の結果

「(たいへん)役に立っている」との回答は、派遣元 96 %、研修生 86 %であり、「(ぜひ)派遣したい(派遣元)」は 95 %、「(強く)勧めたい(研修生)」も 94 %と、全体としては、派遣元・研修生ともに肯定的な意見が大多数であった。

短期研修においても、「どちらとも言えない」との回答も数%みられたが、やはりその背景に、研修を終えて派遣元に戻った際に、研修経験を生かせる業務に就いていない現状があるものと考えられた。

修了生の自由記載には、「幅広く専門的知識を得ることができ、現場で活用できる」、「専門知識の裏づけを得ることができ、現場で自信を持って指導が行えるようになった」、「研修参加によってモチベーションがあがった」、「他の都道府県の状況などの情報を得られた」、「実際の業務遂行において重要なポイントをつかむことができた」等の意見が寄せられた。

## 4. 調査を踏まえた提案

今回のフォローアップ調査に寄せられた意見を各分野・研修ごとに検討し、さらにそれらをまとめたところ、専門課程、短期研修について、それぞれ以下のように集約されたので、対応策とともに述べる。

### 専門課程への提案

#### 短期的なもの

#### ①グループワークの活用

ディベートや課題解決型のグループワークの有用性を指摘する意見が多かった。従来も分野によっては、かなり大幅に取り入れてはいたが、今後さらに、科目の目的に沿った形のグループワークを積極的に取り入れていき、例えば、Faculty Development（教官資質向上研修）でグループワーク手法を取り上げるなど、内容の向上にも努めていきたい。

#### ②講義内容の重複の解消

あるトピックについて、複数の講師からそれぞれ異なった視点で説明を受けることは必ずしも無駄とは言えないという考え方もあるが、やはり過度の重複は研修意欲の低下にもつながりやすく、解消すべきである。実務者レベルで科目内容の調整を図る機会を設定するなどして、内容重複の解消に努めたい。

#### ③現場実習の導入

現在も分野や科目によっては現場見学や実習を取り入れているものもあるが、科学院の研修はより現場で働く保健医療福祉従事者に役立つものでなければならぬことから、先進的な取り組みをしている機関での実習等も積極的に取り入れていきたい。

### 中長期的なもの

#### ①フォローアップ研修

フォローアップ研修への要望もたいへん多かった。長期の専門課程を受講すると、その後、あまり研修に出してもらえない派遣元の実状もあるものと考えられる。一定期間後のフォローアップ研修の意義も大きいと考えられるので、前向きに検討したい。また、科学院同窓会を通じての情報交換や交流も積極的に進めていきたい。

#### ②E-learningの活用

派遣元の財政状況の悪化に伴い、長期間の派遣がむずかしくなっている現状がある。科学院では、現在、選択科目を中心に遠隔教育化を推進しているが、前項のフォローアップ研修とも関連づけながら、派遣元と研修生のニーズに応じていきたい。

③研修を生かす業務への配置（キャリアパスも考慮した計画的な派遣）を派遣元に促す今回の調査で、せっかく研修を受けたにもかかわらず、戻ってからそれを生かす業務に就いていない修了生がある程度存在することが明らかとなった。これは、短期研修も同様である。人事上の都合もあると思われるが、これは、修了生本人のみならず、派遣元や科学院にとっても損失につながる事なので、研修を生かす業務への配置、言い換えれば、キャリアパスも考慮した計画的な派遣を考えてもらうよう、派遣元に働きかけていきたい。

### 短期研修への提案

#### ①研修生のレベルを揃えた研修

科学院の教育研修は、高度な保健医療福祉従事者の育成を目指しているが、研修によっては、受講する研修生の知識や技術、経験のレベルに関するばらつきが大きいものもある。研修生のレベルのばらつきは、研修を進める上で、講師の負担を増したり、研修生の学習効率を低下させたりする要因になりうる。期間の比較的長い研修であれば、補習なども可能であるが、短い研修の場合はそれも難しい。今後は、

募集要項やウェブ上の研修案内等で各研修のレベルを明示するなどの方策をとるとともに、事前に準備研修として E-learning の機会を提供するなどして、一定の知識や技術を身につけた上で研修に臨めるよう検討したい。

#### ②テーマを絞ったより短期間の研修

短期研修においても、派遣元の財政事情や業務の多忙化によって、研修期間の短縮が求められる傾向にある。また、近年各人の業務が高度化、専門化していることもあり、従来みられたフルコース型研修よりも、トピックやポイントを絞り込んだアラカルト型の研修が望まれている感触を得ている。ただ、研修によって幅広い視野を獲得することも研修生にとっては重要な意味を持っているので、ただ、短くすればいいというものでもない。今後は、各研修において到達目標に沿って内容を精査することで無駄な部分を減らしたり、単純な知識伝達の部分は E-learning で行ったりするなど、科学院滞在期間中の研修内容の濃度を上げる工夫を検討していきたい。

#### ③ステップアップ研修、フォローアップ研修

現在、一部の研修では、同じテーマでも、一般的な技術・知識向上を目指した基盤的研修とその修了生を対象として企画立案の技術向上を目指した応用的研修の2種類を実施している。テーマによっては、今後ステップアップ研修としてこのような二本立ての研修の提供を検討する必要があるものと考えられる。

フォローアップ研修については、比較的長期間の職種別研修の一部には、現在も同窓会的な組織を作って情報交換や交流を進めているものもある。E-learning と組み合わせれば、情報交換・交流と知識のアップデートが図れる可能性もあり、今後の検討課題と言える。

### 5. 今後のフォローアップ調査について

今回、第1回のフォローアップ調査を実施したが、今後も継続的に実施して、科学院の教育内容や体制を見直すと同時に、科学院に課せられた社会的使命を再確認していくことが求められている。その場合、頻度や対象とする分野・研修、調査対象年度等も今回の経験を基に明確にする必要がある。例えば、頻度については、3年ごとに実施される機関評価に合わせて実施するのが効果的であろう。対象とする研修も、専門課程は全分野であろうが、短期研修は今回同様10日間以上の研修に限定するのか、もう少し範囲を広げるのかも検討が必要である。さらに、対象年度についても、今回は直近の2年間としたが、特に専門課程の場合、長期的な有用性を検証するには、5年あるいは10年と遡って調査する必要があるのではないかと考えられ、検討が必要である。また、研修によっては、必要に応じて、一斉調査とは別に、修了生や派遣元の意見やニーズを収集する努力も行うべきであろう。

### 6. 終わりに

今回の調査では、派遣元および修了生の科学院の教育研修に対する高い関心・期待



と愛着が、80 %前後の高い回収率となって表れたものと認識しており、回答してくださった皆様には心から感謝申し上げます。また、研修についても、概ね高い評価をいただき、職員一同、たいへん勇気づけられるとともに、身の引き締まる思いである。さらに、今後の研修内容や研修のあり方についても、数多くの建設的なご意見をいただき、なお一層の使命感を感じている。

保健医療福祉に対する一般国民の関心は日に日に高まっており、科学院も国立の機関として、第一線の保健医療福祉従事者に対して質の高い教育研修を提供することを通じて、国民の負託に答えていかなければならない。今回いただいた貴重なご意見をもとに、科学院の教育研修を常に改善し続けることこそ、その近道だと考えている。全国の派遣元と修了生こそが国立保健医療科学院の力の源泉であることを銘記して、本報告書のまとめとしたい。

アンケート調査集計表(全体版)

回答等	研修名		専門課程 I		専門課程 II		専門課程 III		合計	
	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生
発送数	24	38	9	16	23	25	56	79		
回収数	21	30	6	10	19	21	46	61		
回収率	88%	79%	67%	63%	83%	84%	82.1%	77.2%		
本研修は役にたっていますか 研修生へあなたの現在の職務遂行に役に立っていますか	大役に立っている	5	12	2	4	10	43.5%	42.6%		
	役に立っている	14	14	3	4	10	50.0%	45.9%		
是非派遣したい強く勧めたい 派遣したい 勧めたい どちらとも言えない 絶対に派遣したくない 絶対に勧めたくない	どちらとも言えない	2	3	1	2	1	6.5%	9.8%		
	役に立っていない		1					1.6%		
派遣元へ 今後も本研修に職員を派遣したいと思いませんか 研修生へ 本研修を他の人に勧めたいと思いませんか	全く役に立っていない									
	是非派遣したい 強く勧めたい	5	10	1	2	7	32.6%	31.1%		
派遣元へ 今後も本研修に職員を派遣したいと思いませんか 研修生へ 本研修を他の人に勧めたいと思いませんか	派遣したい 勧めたい	12	15	4	4	13	54.3%	52.5%		
	どちらとも言えない	4	5	1	4	1	13.0%	16.4%		
	派遣したくない 勧めたくない									
	絶対に派遣したくない 絶対に勧めたくない									



